

防災プロジェクト「生物生産科」

<p>テーマ</p>	<p>安心安全な非常食の原料生産</p>
<p>目的 (背景・目標)</p>	<p>非常食であるからこそどんな人でも食べる事ができなければならない。そのためには原料からしっかりとしたものを生産しなければならない。安心・安全な非常食製造のため化学肥料は使用せず、更に農薬の使用を極限まで減らした米の生産を行うこととした。</p>
<p>方法および内容</p>	<p>原料の米〈コシヒカリ〉を生産するにあたり出来る限り農薬を使わず生産したい。しかし、除草や病気の予防をせず一定量の米を収穫することは簡単ではなく経験もない。</p> <p>今回は比較的簡単であり、経験者も多いことから合鴨農法を取り入れることにした。この農法は田植え時から出穂期までの除草を合鴨が行う農法である。初期と中期の除草薬をカットできる。その他の農薬は深刻な「いもち病」や「カメムシの発生」などが無い場合防除はしない。したがって薬品の使用は種子消毒のみとなる。</p> <p>本校での合鴨農法は例がないので新見市哲西町 岡崎太郎氏による指導を受けながら生産を行う。資材等は新見市哲西町池田氏より借用することとした。</p> <p><内容> 耕起・・・トラクタ 代かき・・・トラクタ 小屋設置・・・廃材等を用いて製作 田植え・・・機械植えと手植え 天蚕糸はり・・・水田の周囲に縄を打ち付けて張る 稲刈り・・・コンバイン 脱穀・・・小型もみすり機</p>
<p>結果および考察</p>	<p>天候もよく、いもち病などの病気の発生は見られなかったため防除は行わなかった。カメムシの被害が若干あったが飯米として使用せず米粉に加工されるので問題ない。</p> <p>除草剤・殺虫剤は使用しなかった。殺菌剤は種子消毒1回のみ使用した。</p> <p>低農薬・有機米の生産ができた。非常食の原料米40キロを食品製造科へ渡した。</p>
<p>まとめ (成果・課題等)</p>	<p>農薬を使わない農法は非常に手間がかかり、農薬の便利さを痛感した。病気や収量など無農薬栽培に適した品種の選定を行うことで、労力を軽減できるのではないかと考える。</p> <p>しかし、慣行栽培ではなく、アイガモを用いることで生徒の興味・関心を喚起することができた。また、飼育からと殺までを体験させることにより、命の尊さや食料のありがたさを学ばせることができ、防災という観点からだけでなく、様々な観点で意義ある教材となった。</p>



田植え作業



岡崎氏による説明



アイガモ小屋設置



アイガモの到着



アイガモを水田へ



稲刈り作業



脱穀作業



脱穀完了